

## 平成29年度 NHKグループ合同入局・入社式 会長講話（要旨）

NHKグループの仲間として、皆さんを心から歓迎いたします。

私は会長に就任するまでの3年半にわたってNHKの経営委員会委員、監査委員を務めてきましたが、そこで実感したことは、NHKグループの仕事は実に幅広く、一人一人がやりがいをもって業務にあたっているということです。皆さんは今日からの研修を経て、全国の職場に配属されます。それぞれの職場で、思いきり新しい風を吹かせてください。

いまNHKは、その歴史のなかでも稀な大きな変化の時を迎えています。ラジオからテレビへ、白黒テレビからカラーテレビへ、地上波から衛星波へ、アナログからデジタルへ、と技術の革新に伴って、NHKの仕事は大きく変わってきました。いずれも「放送」という領域のなかでの変化でした。ところが、いま私たちが直面しているのは「放送と通信の融合」の時代です。さまざまな情報を、放送か通信かを意識せずに、「いつでも」「どこでも」「どの端末でも」あたりまえに得られる時代ですが、われわれ放送局の立場から見ると、通信の世界は、さまざまなプレーヤーが多様で膨大な情報やコンテンツを提供する、いわば大海原、無限に広がる競争的な環境です。こうしたNHKの置かれている時代の状況を、今日からは“当事者”として、よく考えてください。

NHKは2020年までの経営ビジョンで、「情報の社会的基盤として、公共放送から公共メディアへの進化」をうたっています。

まずはインターネットでの放送番組の常時同時配信の実現を要望していますが、どんなインターネットサービスを実施していくのか、どんな工程表を描いて実施していくのか、これは平成30年度からスタートさせる次の経営計画の中心課題になります。

また、放送の質のより一層の向上に向け、4K・8Kスーパーハイビジョンの推進にも取り組みます。すでに試験放送が始まり、来年12月には実用放送がスタートする予定です。そして、公共放送から公共メディアへの進化を勢いづかせるものが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックです。これを一つの節目に、インターネットのさらなる活用や4K・8Kスーパーハイビジョンの推進によって、最高水準のサービスを実現し、公共放送から公共メディアへの進化を実現したいと考えています。

そのためにはNHKグループ一丸となってチャレンジする必要があります。皆さんは、3年後のオリンピック・パラリンピックに向けて、ダイナミックに変化し、進化するための挑戦を続ける、とてもエキサイティングなNHKグル

ープのど真ん中に入ってきたのです。

変化に柔軟に対応するのは若い皆さんの特権です。既存の価値にとらわれない新しい発想と実行力に大いに期待しています。

変化の時代ですが、一方で変えてはいけないものがあります。NHKが「公共」という価値を担うということです。視聴者・国民の皆さまの信頼を土台に公共の価値を実現する、それがNHKの根本的な在り方です。

では、その信頼を獲得するために求められることは何でしょうか。

一つは、自主・自律を貫き、公平・公正、不偏不党の立場を堅持することです。そのことを納得していただいて、視聴者の信頼を獲得する。その信頼が受信料制度という形でNHKを支え、NHKの自主・自律を実体的に保障する。こういう関係が完結してこそ、NHKは存立していけるのです。

もう一つ、視聴者の信頼を得るために必ず求められるのが、私たちNHKグループで働く者が、公共放送、公共メディアに携わる者として、自らを律し、高い倫理観を持って、コンプライアンスを徹底するということです。基本的なことですが、公共放送としての信頼を得るための土台となることです。公共放送で働くものとして、まずはそこで働くためのルールを身に付け、放送倫理を理解し、自らのものにしてください。NHKというブランドを冠する責任があることをよく自覚してください。

NHKの公共性という視点で、もう一つ押さえておくべきことは、あまねく情報を収集し、放送を届けるために、全ての都道府県に張り巡らした54の放送局のネットワークがあることです。それによって、視聴者に寄り添った、より身近な情報を届けることができるのです。全国に広がるネットワークはNHKの財産であり、公共財であることも認識してほしいと思います。

社会人としての一步を踏み出す皆さんに、人生の先輩として、「心構え」をお話しします。

NHKに関わるようになる前、私は長く総合商社で仕事をし、海外での生活も長く、テレビを見る機会もそれほどありませんでした。そんな私が外からNHKに来て驚いたのは、NHKの放送の裏側に組織を支える実にさまざまな人がいることです。

NHKという組織は、関連団体も含め、実にさまざまな役割を担う人たちの

協力のもとで成り立っています。組織にはさまざまな役割があり、それを担う人たちが誠実にその役割を果たしてこそ、組織は息づいていくのです。時には組織の全体に謙虚に目を向けて、想像をめぐらせてください。

皆さんに、もう一つ申し上げたいのは「志を高く、与えられた場所で全力を尽くせ」ということです。

皆さん、アリジゴクを知っていますか。砂地にすり鉢状の穴を掘って落ちてきた蟻を捕まえます。前途洋々の皆さんの仕事を、いきなりアリジゴクの穴掘りになぞらえるのもなんですが、皆さんにはぜひ、それぞれ配属されたその場所で、精一杯大きな穴を掘ってほしいと思います。そして、また次の場所に行っても、そこでもぜひできるだけ大きな穴を掘ってください。そうやって、いくつかの穴を掘るうちに、ある時、その穴の縁と縁が重なり、いきなり崩れて、一つの大きな大きな穴になることを実感できる時があります。

与えられた場所で大きな穴を掘っておけば、その経験が新たな仕事と有機的に結びつき、大きな力となることを実感できる時がきつとくると思います。

どこに配属されるのか、どんな仕事をするのか、周りの仲間と比較して、なぜ自分は…と不安を感じる人もいると思いますが、他人と比べる前に、何よりも自分が与えられた場所で全力を尽くすこと、自らの志を忘れないこと、このことをぜひお願いしたいと思います。

最後に、皆さんにこの言葉を贈ります。

*The past is history,  
the future is a mystery,  
but today is a gift  
-that's why they call it 'the present'*

「現在」のことを英語で「present」と言いますが、「贈り物」の意味もあります。今日という日は、またと来ることのない「天からの贈り物」です。何よりも今日という一日を大事にする気持ちを持って、これからの社会人としての日々を送ってください。

今日という一日を大切に、それぞれが与えられた場所で、志を高く、悔いのない人生を送ってほしいと思います。皆さんの活躍を大いに期待しています。

(以上)